辰巳会会員便り

平成二年春叙勲受章者

勲二等旭日重光章

植田　三男氏

（日商岩井　相談役）

勲三等瑞宝章

浅田　幸吉氏

（元神戸製鋼所　専務取締役）

右記の方々が受章されました。洵におめでたく心より御祝申し上げます。

植田　三男

平素は格別のご高配に預かり有難く厚く御礼申し上げます。さて、私儀このたびはからずも勲二等旭日重光章受章の栄に浴しましたところ早速ご鄭重なるご祝詞を賜りご芳情の程誠に有難く衷心より厚く御礼申し上げます。

又　この栄誉は偏に尊台をはじめ皆様方の永年にわたる格別のご懇情とご支援の賜と衷心より感謝致しております。なお今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

早速拝眉の上御礼申し上げるべきところ略儀ながら取り敢えず書中をもって御礼申し上げます。

平成二年五月

小原多喜子

一筆、御免下さいませ。

立春も過ぎまして時折は春のような暖かい日もありますが矢張まだまだお寒さきびしゅう御座居ます。

此度夫恒太郎死去に際しましては社長より過分の御厚志竝に供花をいただきまた、お寒い中を城戸専務様、森哲時様の御会葬を賜り有難く厚く御礼申し上げます。おかげ様にて恙がなく佛事も終り、大分落着いてまいりました。

主人は昭和六十一年の大鳴門橋及び霊山寺の会に参加後健康を害し六十二年二月より愛知医大多治見市民病院に入院、退院のくり返しで昨年は十月始めより十二月半ばまで市民病院に入院しておりましたが小康を得ましたのでお正月は家で迎え、子供達家族も家に集り楽しくお正月を迎えました。食欲もあり、大好なお酒も楽しみに飲んでおりましたが一月廿一日の夜、私がヨーグルトをたべさせましたところこんな美味しいのは今までにないと言って夜、目がさめたら牛乳をわかして呉れと言ったのが最後で、一日朝本当に静かに静かに息を引きとりました。丁度この日は満八十才の誕生日でした。

主人と鈴木商店の関係は、大正十二年の関東大震災の折、横浜に住んで居まして姉が鈴木商店の生糸検査所に勤めていた関係で本店より一番に救援にかけつけて来た船に乗って家族全員で神戸へ来たそうです。その後本店のぼんさんとして入りまして、重役室につとめていました。お家様や御主人の岩次郎様、若御主人の岩蔵様、金子様其他の重役方にも可愛がられ特に金子様には身の廻り一切のお世話をさせていただいて赤坂の家だ須磨の家でも泊りこみだったそうです。

昭和二年御店が解散後金子様の命で在京、東京無線に勤務又太陽産業に戻り、仙台チタン工場、太陽鉱工羽幌炭鉱、最後は太陽鉱工の伊予工場と永い間お世話になりました。昭和十六年夏関東軍に召集を受け満州に三年程、後ニューギニアの南海派遣にまわされ、やっとどうにか生きのびて二十一年四月オーストラリアより帰還いたしました。

其の間に金子様はすでにあの世に先だたれておられ、一目おめにかかりたかったと泣いておりました。いつも脳裏にあるのは金子様と共にした思い出で死ぬすこし前妄想がはげしくなった時などいつもそこにだれかがいるなど指さしておりました。思い出をいっぱい胸に秘めてあの世へ旅立っていった事だろうと思います。明治、大正、昭和、平成と四代波乱に満ちた永い八十年の生涯を終りました。最後に会員皆様の御長寿と辰巳会のいつまでもつづきます様、お祈りいたして御挨拶とさせていただきます。

平成二年二月十日　　合掌

曽根　松江

此の度は主人好雄会に参加させて頂き病気の為折角楽しい会合に大変御迷惑をおかけ致しまして申訳ない事で御座いました。其上お見舞いまで頂戴致しまして有難う存じました。皆様にお会い出来る慶びでまさかこんな御迷惑をおかけするとも思わず申しわけ無く存じます。お許し下さいませ。早速よい病院に入れて頂き御心の厚い先生や看護婦様の御親切にあやうい一命を取り止めさせて頂き、日々快方に向かわせて頂いて居ります。

好雄も涙して慶んで居ります。此の上はしっかり養生させて頂き又皆様方にお目もじ出来ます様頑張らせて頂きます。早速御礼申し上げねばと存じ乍ら大変遅くなり申し訳御座居ません。皆様方にどうぞよろしくお伝え下さいせ。今後共何卒よろしく御願い申し上げます。

岡本　賢治

この度は亡父志良に御丁重なる御供を頂き誠に有難く厚く御礼申し上げます。

父は辰巳会のことをとても重要に考えていました。一生のなかで一番思い出が深いのではなかったでしょうか。今回の御配慮をみましてもこの会の素晴らしさがよく判ります。長く辰巳会が続くことを心よりお祈り申し上げます。

末筆乍ら会員の皆様によろしく御伝え下さい。

秋元　鷹男

餘命を大切に暮らして居ります。各位の御健康を祈ります。結婚式、葬儀など重なり、御返事を出すことを失念しました。不悪

大塚　融

すっかりごぶさたしています。柳田義一様から時折、句集を御送り頂き、辰巳会をそのたびに思い出します。ことしは花博のしごとにかかりきりで休みもとれない毎日がつづいています。

牧　冬彦

御案内を頂き有難う存じます。所用のため参加できませんが、貴会の益々の御清祥を祈念いたします。

白井栄次郎

小生の宅の町名はそのまゝですが、屋号は一五七号から八－一六に数年前から変更になっていますので御諒承願います。

山芦屋町八－一六

廣野　敬吾

老令足自由を欠き、是非参加したいところ、又御計画に悉く出席参加したい気持ちは山々なれど健康に自信なきところから、参加叶ひません。御諒承願います。盛会を祈ります。

拓殖五百刀

全国大会の御案内を頂き大慶に存じました。是非参加致したいのですが、折り悪しく、五月十二日、十三日に実兄の九十二歳六十周年結婚記念日に当たり小生の八十八歳の祝いをやってくれる事に定まって居るので、残念乍ら出席出来ず申訳なく存じて居ります。殊に実兄の子供三人家族数十二名と共に六甲山上で一泊することになって居るので特に残念に存じます。

小島　秀子

何時もながら御案内頂きまして有難うございました。夫実儀去る三月二十一日に心不全にて他界致しました。長年の御高誼有難うございました。

中屋伝太郎

いつもながら格別の御世話様に預り有難うございます。昨年末病気しまして、回復に努力中でござ

います。会の益々の御隆盛を御祈り申し上げます。

有賀美智子

おかげ様で元気に過しております。

平高　義子

辰巳会全国大会の御案内を頂き有難うございました。何処に決まるのだろうかと楽しみにお待ちしていましたが、東銀のサンパウロ支店に勤務しております次男の子供の卒業式に出席するため、ブラジルに出掛けますので本当に残念ですが欠席させて頂きます。何卒盛会の上に、会員皆様の御健康を心よりお祈り申し上げます。

佐野　寿夫

去る十二月中旬、愚妻の母が死去致しましたので一年間は神様詣りは遠慮させて頂きます。切角のチャンスですが御許し願います。

金子　常意
金子　孝蔵

母常意（常子となっていますが正しくは常意）は昭和六十年十二月に外出中に倒れて腰骨を骨折して以来、今日迄約四年半病院生活が続いております。今では頭も痴呆がひどくなり、寝たきりの状態です。昨年九月に市から卒寿の祝の品を頂戴しましたが、昨今は食欲もなくなり点滴の毎日です。

辰巳会は何時も欠席ばかりですが以上の様な状態ですので御諒承下さい。

大谷　一二

相変らず元気にやっております。当日は留守をしていますので残念乍ら欠席させていただきます。

鍵田　丈夫

先般甲南病院退院、まだ通院中ですので自重して欠席させて頂きます。御蔭で大部良ろしい様ですが、まだ自信がありませんので悪しからず御了承下さい。

（二年六月二十六日死去）

居長龍太郎

病臥中でございますので残念ながら欠席させて頂きます。

野原　貫司

足が悪くなりましたので欠席させて頂きます。

北尾　素子

御蔭様で日々元気に過させていただいております。全国大会に是非出席させていただくのを楽しみにしておりましたが、年に一度のクラス会と重なりまことに残念乍ら欠席させて頂きます。辰巳会の益々の御発展と皆々様のお健康を心より御祈り申し上げます。

仁賀　利一

近年老化の度を加え地区の老人クラブの旅行等にも殆ど参加して居りません。誠に勝手なお願いですが御手数をおかけするばかりで申訳ありませんので会員を免除して頂ければ幸甚の至に存じます故、何卒宜敷く御取計らいの程お願い申し上げます。

横田　周作

健康状況は良好でありますが、生憎当日所用あり出席出来ません。

吉田　宣蔵

昨年十二月より食欲をなくして入院加療中でございますので、御案内を頂きましたが残念で御座居ますが欠席させて頂きます。皆様に何卒宜しくお願い申し上げます。

井上　好正

病気静養中のため当日は欠席させて頂きます。皆様へよろしくお伝え下さい。全国大会のご盛会を心からお祈り致します。

森　好子

いつもお世話になり有難う存じます。残念でございますがこの頃丁度学校関係の旅行がございまして失礼させて頂きます。またの機会を楽しみにいたしております。何卒よろしくお願い申し上げます。

池谷　政雄

前回はじめて辰巳会に出席させて頂きまして誠に楽しい一刻を過ごすことが出来まして有難うございました。今回は誠に残念ですが十四日関連会社の取締役会に出席いたさねばなりませんのでこの度の全国大会は欠席させていただきます。植田会長様に何卒よろしく御伝え下さい。

間室　太郎

残念ですが六月に万博行の予定がありますので見合せます。

金子　甚蔵

いつも御世話様でございます。折角楽しいお誘いをいただきましたが高血圧と足腰の弱りの為残念ですが欠席させていただきます。

私は通院と体調のいい時近所を散歩する位の暮らしを致しております。皆々様の御健康と御多幸又辰巳会の御盛会をお祈り申し上げております。

山口　義雄

私は今年八十四歳です。大正十四年四月函館商業学校五年卒業と同時に函館「辰　鈴木商店函館支店に入社させていただき、なつかしい深い思出の会社です。今年は残念ながら欠席させていただきます。

越智　栄

折から当日差し支えがあり、出席叶いませずまことに残念に存じます。晴天御盛会を祈上げます。

西川　明子

いつもお世話になりまして有難うございます。当日は誠に差し支えのため失礼させて頂きます。折角御案内頂きましたのに申し訳なく存じて居ります。

岩永　英二

家内が足のリューマチで歩行悪し最近入院する予定です。留守番がいない為残念ながら欠席させて頂きます。いつも御世話様です。喜んでおります。

（二年五月三十一日死去）

山本　濱一

全国大会のご案内ありがたく拝見いたしました。鳥羽造船所時代からの思い出深い所、そしてお伊勢さん参詣と誠に結構なお計画ですが残念ながら欠席させて頂きます。よろしくお願い申し上げます。ご盛会を心からお祈り申し上げます。（私の体調は別に変りございません。）

柳田　政江

足を悪くしておりますので欠席させて頂きます。

曽根　松江

主人好雄一月二十三日神戸みなと病院入院致して居りますので欠席（退院済み）

橋本知一郎

転居の準備及び事後整理等で聊か疲れていますので甚だ勝手ですが欠席させて頂きます。御盛会を祈っています。

隅田　まさ

何時もお世話になりまして済みません。足の悪い事は何とも残念でなりません。今は仮住いのマンションで近くの公園に毎日歩くのに一生懸命に励んでおります。身のまわりの事がやっと出来るようになりましたが、旅行はまだ出来ませんので勝手させて頂きます。

皆様の御無事をお祈り致しております。早く辰巳会に出席出来る様になり度く思います。では皆様によろしく。

真玉　修一

都合により此の度は欠席さして戴きます。御案内状を戴き残念ながら出席できず何卒宜敷御取計いの程御願い申し上げます。会の盛会を御祈り申し上げます。

森田　定雄

毎々御配慮ありがたく御礼申し上げます。この後もよろしく。

芦原　有一

たまたま当日他用のため欠席致します。折角の御招待を頂きましたのに申訳ございません。御出席の皆様によろしく後鳳声下さい。

千頭　元一

どうにか元気に過ごして居ります。欠席致しますのでご諒承願います。

田中　清

おかげ様で元気に暮らしておりますが、五月十三日、十四日に生憎所用ができましたので残念ながら失礼いたします。御盛会を祈ります。

国廣　五郎

御案内有難う御座居ました。体調崩し目下外泊旅行は無理と思います。皆様に宜敷くお伝え下さい。当日の御盛会を御祈り申し上げます。

鷲尾千鶴子

いつもお世話様に相成り有難く御礼を申し上げます。結構なご企画で嬉しく存じましたが先日来身体少しく不調のため残念ながら欠席させて頂きます。先日表記へ住所移転致しましたのでこの便をお借りしてお届け致します。何卒今後共よろしくお願い申し上げます。

大松　康祐

毎度御手数相掛け御申訳なく恐縮に存じます。さて私儀持病の糖尿病で月に一度ですが通院加療致して居ります。尤も毎日インシュリン注射は自分自身で行って居ます。食事療法は全然やりません。好みの物を好きなだけ摂って居ります。完治も致しませんが左程悪くもなりません。眼も耳も充分役立って居ります。有難い事と思って居ります。

只、最近脚が随分弱って参りました。右御礼方々近況御知らせ迄。

松田　大介
松田　かよ

いつも御世話になります。主人入院中ですので残念乍ら欠席させていただきます。せめて私でもと存じますが残念です。皆様の御清栄祈り上げます。

田宮　豊治

体調不良の為昨年より脳梗塞のため静養中

お知らせ

日本発条株式会社相談役
池谷　政雄氏

東京支部幹事として御世話願うことになりました。

訃報

東京支部幹事　田代　義雄氏
東京支部幹事　小島　實氏

右お二人は永らく支部幹事としてお世話願って参りましたが、物故者にある通り、夫々の日に逝去されました。

心より御冥福を御祈り致します。

俳句

雑詠

岡田　静女

水温む須磨の渚に貝拾ふ
ばら園の上をゴンドラ宝塚
樟新樹目あてに行けと教えられ
図書館を出てアカシヤの夕明り
先づ硯洗ふことより星祭
うぶすなに椎拾ひしが共に老い
歳晩の一人の客や古本屋

北野　浅美

花筏

着ぶくれし妻蟇口を探しおり
啓蟄のみみずを鍬に傷めけり
流れつく先あるごとく花筏
春眠や海の底にも似し山河
室の花二日づゞけて着る喪服

伊勢詣

宇治橋を渡るときめき五月雨
緑蔭に千古の息吹きみちみちぬ
緑蔭に玉砂利の音すがすがし

初夏の伊勢

松村　勲

海霧深く鳥羽の眺望を奪はれし
植田はや四方にひろごる伊勢路ゆく
青時雨内宮垣根蛙鳴く
幽玄の神楽に止みぬ青葉雨
しあわせの村てふに来て青時雨
風薫る親宮園に児ら満ちて
五月晴花博花に酔ひにけり

天は二物を与えず

身体の丈夫な人、頭が悪い
頭のよい人、身体が悪い
器量のよい人、愛想が悪い
愛想のよい人、器量が悪い
愛想も器量もどちらもよけりゃ、身体が悪くて病院通い。
金のある時、暇がない。暇のある時、金がない。
お金お金と無理してためた。
たまった途端に生命がもたぬ。
家も新築、お金も出来たが肝心要の子が出来ぬ。
出来た出来たとちやほやしたら、ためたお金を湯水と使う。
お金も子供も言う事ないが、もらった嫁御が気に入らぬ。
産んだ我が子も親に立てつく世の中だ。
他家で生まれた人じゃもの、辛抱するのが当り前。
二つ揃ってよい事ないと悟るまでには月日がかかる。
わかりかけたらこの身の終り、ほんに浮世はままならぬ。

（故河中孝準師文）